

コンコルディア・フィナンシャルグループ グリーンボンドフレームワーク

1. はじめに

コンコルディア・フィナンシャルグループ（以下、コンコルディア FG）は、神奈川県と東京都をおもな営業地盤とする地域金融グループであり、傘下に横浜銀行と東日本銀行を擁します。銀行業務を中心に、証券業務、リース業務、情報サービス・調査業務、ベンチャーキャピタル業務などをおこなっております。

コンコルディア FG は、地域金融機関としてすべてのステークホルダーの皆さまの架け橋となり、社会的課題の解決に向けた企業活動に取り組むことで、地域社会とともに持続的に成長し、発展することをめざしています。このため、コンコルディア FG では、地域経済の活性化、まちづくり、人々の暮らしを豊かなものにする応援、環境に配慮した取り組みといった企業活動を通じて、持続可能な社会の構築を進めております。コンコルディア FG は、グループ環境方針のなかで、商品やサービスの開発・提供を通じて、環境問題に取り組むお客さまを支援することや、省資源、省エネルギー、廃棄物のリサイクルを推進し、環境負荷の低減に努めることを定めています。この方針にもとづきコンコルディア FG が設定したサステナビリティ長期 KPI の中で、グリーンファイナンスを 1 兆円実行（2019 年度から 2030 年度まで）すること、2030 年度までにカーボンニュートラル（Scope1 および 2）を達成することをサステナビリティ長期 KPI として設定し、環境負荷の低減に努めています。グリーンボンドの発行により調達した資金を活用することで、こうした取り組みを一層進めていきます。

2. グリーンボンドフレームワーク

2-1. 調達資金の使途

グリーンボンドにより調達した資金は、グループ会社を通じて、以下の適格クライテリアを満たす新規の貸出や支出、またはリファイナンスに充当します。リファイナンスに充当する場合、設備投資に係る貸出や支出についてはグリーンボンドの発行日から遡って過去 5 年以内、運営費に係る貸出や支出についてはグリーンボンドの発行日から遡って過去 3 年以内に実行された貸出や支出を対象とします。

適格クライテリア

■ グリーンビルディング

以下の評価を得た新たな建物の建設、購入または既存建物の修繕

- ・ LEED: GOLD 以上
- ・ BREEAM: Excellent 以上
- ・ CASBEE: A Level 以上



■ 再生可能エネルギー

以下に示す再生可能エネルギーに係る新規および既存のプロジェクト

- ・ 太陽光発電



- ・ 風力発電
- ・ 地熱発電
- ・ バイオマス発電（持続可能な原料または廃棄物に限る）
- ・ 小規模水力発電（発電容量 25MW 以下）

■ エネルギー効率

LED 照明や高効率 HVAC（暖房、換気および空調）、建築断熱材、エネルギー使用量のコントロールシステムを含む（ただし、これらに限らない）省エネ設備に関する事業



■ クリーントランスポーテーション

クリーンエネルギー車（電気自動車や燃料電池自動車およびそれらを支えるインフラを含む）への移行、および公共交通機関（鉄道輸送、自転車、その他の非自動車輸送の改善を含む）の開発、運営および更新に関する事業



除外クライテリア

- ・ グリーンビルディングにおいて、石油、石炭等の化石燃料プロジェクトに使用されることを目的とした産業用建物は対象から除外します。
- ・ バイオマス向けの投融资のうち、パーム油農園開発向けの投融资は、持続可能なパーム油の国際認証である RSPO 等の認証の取得状況や地域社会および環境に対する配慮状況に十分注意したうえで慎重に対応する方針です。

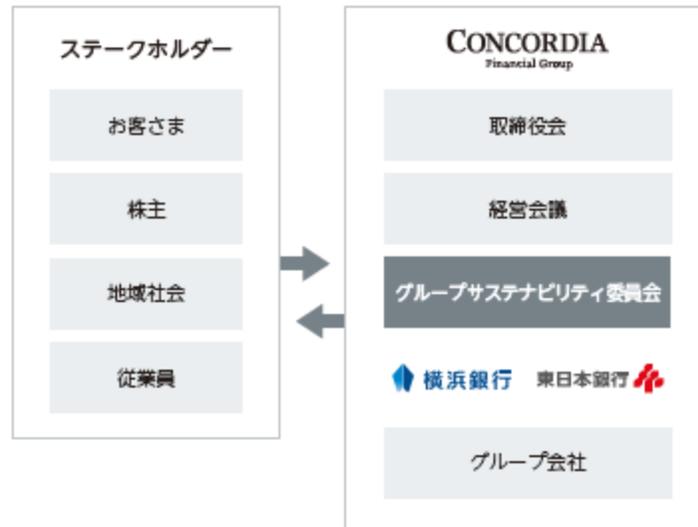
2-2. プロジェクトの評価および選定のプロセス

適格クライテリアの設定にあたっては、コンコルディア FG 経営企画部において起案をおこない、当社グループのサステナビリティの取り組み方針の策定やサステナビリティの取り組み状況の管理・監督をおこなうグループサステナビリティ委員会においても協議の上、グループサステナビリティ方針との整合性を確認しました。適格プロジェクトについては、コンコルディア FG 経営企画部が、選定・最終判断をおこないます。

コンコルディア FG のサステナビリティに係る経営体制

コンコルディア FG では、代表取締役社長が委員長を務めるグループサステナビリティ委員会において、当社グループのサステナビリティの取り組み方針を策定するほか、その取り組み状況について管理・監督をおこなっております。グループサステナビリティ委員会では、ステークホルダーへの影響の大きさや、地域金融機関としての社会的存在意義などの観点から、当社が取り組むべき課題について優先度や重要度について検証・議論を重ね、最終的に取締役会を経て、持続可能な社会づくりのために当社グループが取り組むべき 6 つのマテリアリティを設定しております。

グループ全体で、この 6 つのマテリアリティにもとづいて、各事業部門が連携して、事業戦略を進めています。



環境および社会リスク管理

コンコルディア FG では、環境・社会に対する負の影響を助長する可能性が高い資金使途の投融資への取り組みについて、石炭火力発電事業、クラスター爆弾製造関連事業、パーム油農園開発事業、森林伐採事業といった特定セクターに関する「セクターポリシー」を定めて融資等の判断に適用しているほか、グループ会社である横浜銀行および東日本銀行の所管部署における融資審査において、各種法令・諸規則の順守等や投融資における環境や社会に対する影響への配慮を通じて、環境・社会に対する負の影響を低減・回避するよう取り組んでいます。

2-3. 調達資金の管理

グリーンボンドによって調達した資金の充当状況は、コンコルディア FG 経営企画部によって定期的にモニタリングされ、エクセル管理を通じて追跡可能性が担保されます。なお、その頻度は少なくとも1年に1回以上とします。適格クライテリアを満たすプロジェクトに充当するまでの期間や未充当資金が発生した場合は、未充当資金と同じ額を現金および現金同等物、および/または流動性の高い有価証券に投資します。

2-4. レポーティング

資金充当状況レポーティング

グリーンボンドにより調達した資金が全額充当されるまで、以下の項目につき、少なくとも1年に1回以上、コンコルディア FG の WEB サイトにて開示します。

- ・ 適格クライテリアのカテゴリー毎の充当額
- ・ 未充当額
- ・ グリーンボンド残高

インパクトレポート

グリーンボンドにより調達した資金が全額充当されるまで、以下の指標につき、少なくとも1年に1回以上、コンコルディアFGのWEBサイトにて開示します。

適格クライテリア カテゴリ	インパクトレポート内容
グリーンビルディング	CO ₂ 排出削減量
再生可能エネルギー	発電量 (kWh) (理論値)、CO ₂ 排出削減量
エネルギー効率	CO ₂ 排出削減量
クリーントランスポート	CO ₂ 排出削減量